

# 落地飯坂遺跡(野磨駅家跡)の発掘調査成果

## 駅家遺跡で全国初の正殿・門を発見



遺跡から出土した瓦

**上** 郡町教育委員会では、平成14年度から16年度にかけての3カ年計画で調査を実施しています。昨年度は遺跡の地形測量や航空写真撮影、レーダー探査、電気探査などを行い、遺跡全体が非常に良く保存されていることが分かりました。

そこで2年目の今年度は、昨年度の調査成果を踏まえて発掘調査を行い、駅家の中枢施設である正殿跡と西門跡、西側と北側の築地塀跡などを発見しました。

**正** 殿跡は、遺跡の北側にある山の南斜面に接する一番奥まった部分の中央に位置して、桁行(建物の間口)約15m、梁行(奥行)約8.4mの東西に長い建物で、礎石(基礎石)・瓦葺(かぶせ)きで切妻造(きまつくり)の非常に立派な建物で

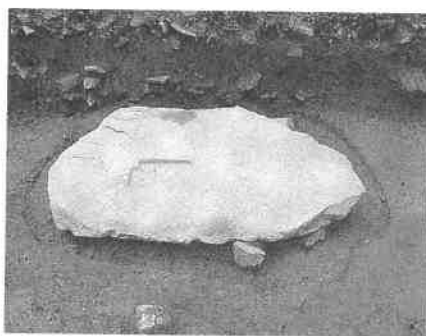
あることが分かりました。

また、建物の北側には山の斜面に平行して排水用の溝が造られていましたが、溝から出土した瓦の中には、一部赤い塗料が付着したものがあり、柱を赤く塗っていたことが証明されました(表紙絵参照)。出土した土器等の年代から、この建物は11世紀ごろまで機能していたと考えられます。

**西** 門跡は、桁行約8.4m、梁行約4.2mの南北に長い建物で、礎石(基礎石)立ち・瓦葺(かぶせ)きの切妻造で、格式の高い八脚門といわれる形式の門でした。礎石がすべて元の位置のまま発見されたのですが、中でも門扉を据える礎石には、扉の軸を受ける穴などがあけられた唐居敷(からいせき)と呼ばれる施設が造り

付けられており、当時の門の構造までが復元できる非常に貴重な発見となりました。

見となりました。



西門礎石には門を受ける穴の跡がみられる

**築** 地塀跡は、土を突き固めながら積み上げて、上部に屋根を設けた構造の土塀で、地方の役所では非常に珍しく、国庁や城柵などの一部の施設に限られていて、山陽道の駅家が重視されていたことを示すものと考えられます。



西門の構造を説明する学芸員(現地説明会にて)

**野** 磨駅家は、『今昔物語集』や『枕草子』にも登場するのですが、律令体制が徐々に崩壊していく当時の社会情勢にともなって荒れ果ててしまった状況が描かれており、その後大きく手が加えられることなく、一千年の時間が流れた姿が今回発見された遺跡となります。

**全** 国で唯一の駅家跡と確定されていた龍野市の布勢(ふせ)駅家跡(小犬丸遺跡)と比較しても、遺跡全体が非常に良く保存されていて、今後の調査によって駅家の全体像が判明していくことが期待でき、全国的に注目を集めていくことと思われ

この度、上郡町教育委員会は、落地飯坂遺跡において、奈良時代後半(8世紀後半)から平安時代後半(11世紀末)にかけての「野磨駅家」跡を確認したことを発表し、去る7月19日(土)、現地説明会を行いました。説明会に全国から集まった延べ約5百人の人々は、遺構を確認しながら学芸員の説明に耳を傾けていました。

「広報かみごおり」では貴重な発見となったこの遺跡について、今月号からシリーズで紹介していきます。

シリーズ・野磨駅家-2-

うまや  
駅家とは

**駅** 家とはいったい何なの  
でしようか。

「駅」というと現在の感覚でいえば、鉄道の駅を思い浮かべます。しかし、駅という漢字が馬偏であるように、本来は馬を置いていた所で、今回発掘された駅家跡とは、古代の道路に沿って設置された馬を乗り継ぐ施設の跡のことなのです。

**奈** 律が定められ、全国を支配する律令国家が誕生しました。律令国家は、中央に権力を集中させる中央集権国家で、中心である都で政治を行い地方を支配して来ました。それには、中央からの命令を地方の隅々まで伝達し、また、地方の情報を中央が掌握するというように、中央と地方とを密接に結びつける必要があります。そのために国家は、

この度、上郡町落地に約1千年の時を経て発掘された落地飯坂遺跡。古代山陽道の要所「野磨駅家」とされるこの遺跡について紹介していくシリーズの2回目は、「駅家」の役割りなどについて紹介します。

当時の都である奈良とその周辺の5つの国を五畿とし、その他の地域を東海道や山陽道といった七道と呼ばれる地域に区分し、駅路といわれる道路を整備しました。この古代の道路は、近年の歴史地理学の研究や発掘調査により、幅9〜12mで直線的に延び、計画性が高く立派なものであったことが分かっていきます。

**駅** 家は、この駅路を往来し、文書などをリレー方式で送っていくことをはじめ、命令を伝達する役人（駅使）らに対し、馬の乗り継ぎや食料の支給、宿泊所の提供などを行う場所として、約16kmごとに設置されました。当時の駅路は重要度に応じて、大路・中路・小路に区分されていましたが、山陽道だけが大路で約20頭の馬を常備することが

定められていました。これは、山陽道が九州の大宰府と都を結ぶ、最も交通量が多い主要な街道であったためです。また、駅家の施設は、外国からの使節なども利用するために、瓦葺きで白壁の建物という、特に立派な建物で整備されていたことが分かっていきます。

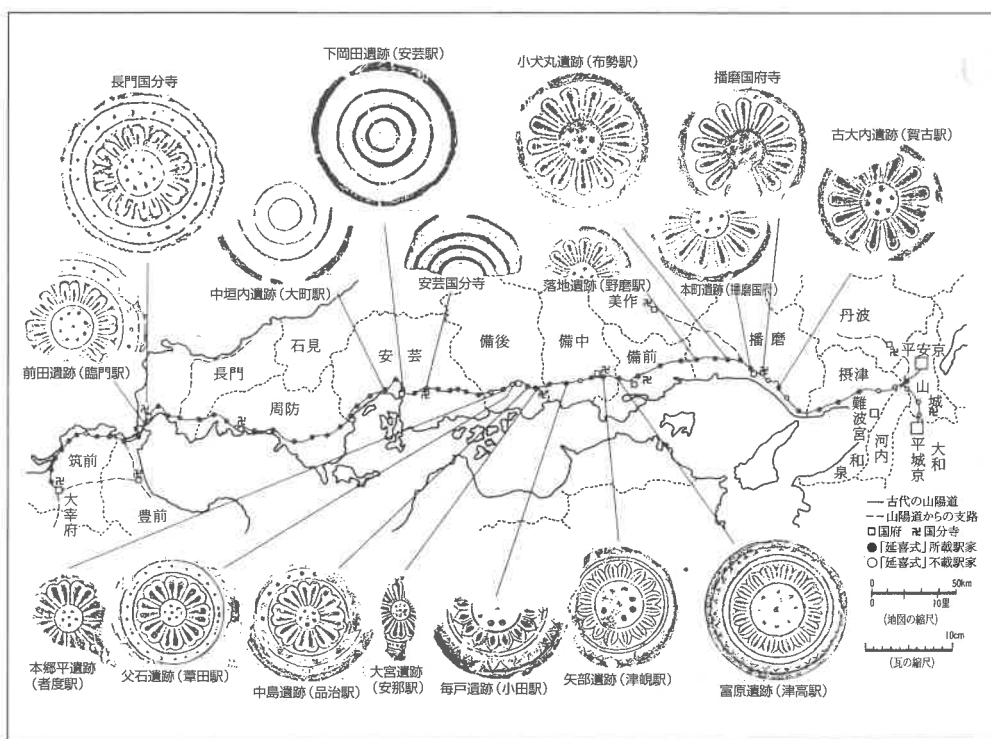
駅家は、全国に4百カ所以上設置されていたことが文献から分かっているのですが、当時の街道は現在も主要道として使われていることが多いことから、そのほとんどが、後世の開発により失われたり分からなくなったりしています。

**近** 年、全国で発掘調査をしている遺跡の中には、駅家の遺跡と推定されるものもあるのですが、その多くが部分的な調査であったり遺跡の遺存状況が悪かっ

たりすることから、これまでに駅家と確定している遺跡は、布勢駅家である龍野市の小犬丸遺跡だけでした。ところが、布勢駅家も、民家や道路、田畑として開発されているため遺存状況が悪く、駅家の全体像が判明しませんでした。

**今** 回発掘された落地飯坂遺跡は、奇跡的に開発から逃れ、遺存状況が非常に良いために、周辺の付属施設も含めた駅家の全体像が判明する可能性が高く、これまでよく分かっていなかった駅家の構造や機能が判明することが期待できます。

《次号へつづく》



古代山陽道の瓦葺駅家 (高橋美久二『古代交通の考古地理』)

シリーズ・野磨駅家-3-

# 野磨駅家と『オロチ』

シリーズ3回目の今回は、「野磨駅家」が発掘された上郡町落地の地名の由来を、平安時代の古典に探ります。

「落地」という地名は、全国でもほかに例のない非常に珍しいものですが、

実は、今回発掘調査をしている野磨駅家の不思議な伝説にちなんだ地名なのです。

【平】安時代中ごろ（11世紀）の『日本国法華経験記』

や、平安時代末（12世紀）の有名な説話集『今昔物語集』の中に、転乗という僧侶の説話が載っています。

転乗は、奈良県吉野山にある修験道で有名な金峯山の僧侶で、幼いころから法華経を勉強し、全8巻のうち6巻まで覚えることができませんでした。転乗は更に修行して、残りの7、8巻を覚えようとするのですが、どうしても覚えられず悩んでいたところ、夢枕に夜叉の姿をした人が現れて、「7、8巻が覚えられないのは、

汝の前世が毒蛇であったころの宿縁によるものだ」と語るのです。

それは、転乗の前世は、播磨国赤穂郡の山駅（野磨駅）を巣にしていた長さ3尋半（約6・3m）もある毒蛇で、ある夜、駅に泊まった聖人（知徳のある人）

を食べようとしたところ、毒蛇のことに気づかない聖人が、法華経の読経を始めました。法華経を聞いた毒蛇は、聖人を食べるのをやめ、目を閉じ、一心に聞いていたのですが、6巻を読み終えたところで夜が明け、聖人は7、8巻を読まずに駅を出発してしまいました。

人を食べることをやめ、法華経を聞いたおかげで、毒蛇は人に生まれ変わることができ、法華経を読経する僧侶となったのですが、前世で7、8巻を聞いていな

いたため覚えられないのである、という内容なのでした。

駅は梨原、望月の駅。山のおまやは、あはれなりしことを聞きおきたりしに、またもあはれなることありしかば、なほとりあつめてあはれなり。（242段、能因本）

これは、有名な『枕草子』の一文ですが、作者の清少納言は、山駅の毒蛇の話の伝え聞き、「あはれな（しみじみと心を打ち趣深い）」駅の代表的存在として記述したものと考えられます。

これらの文章が書かれた平安時代の終わりごろには、それまで全国を支配していた

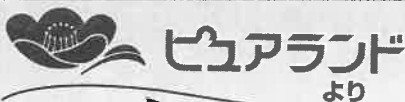
【こ】

律令体制が徐々に崩壊して、駅家もその役目を終えて、毒蛇が住み着くほど荒れ果てていたものと思われまます。そしてその後、建物は朽ち果て、駅の周辺の地名は毒蛇の伝説にちなんで「オロチ」になり、字を改めて「落地」となつて、遺跡とともに現在まで受け継がれているのです。

《次号へつづく》



金峯山寺 仁王門



秋季(9月～11月)

限定のメニューを  
ご賞味ください

秋のシルバープランや宿泊・会席プランもご利用ください。

●レストランメニュー

『味愁の膳』

秋刀魚の俵焼きや粟麩の揚げ出し、松茸と栗の釜飯など秋の実り全10品を味わっていただく、この秋限定のレストランメニューです。

一食 1,800円(税別)

・1日20食の限定メニューです。(昼のみ)  
・予約は承りません。

●グループ・ご宴会用メニュー

『赤穂蒸し』

赤穂の塩で蒸しあげた鯛の姿蒸しをメインに、小鉢には千種川の鮎の甘露煮を添えました。蒸しあがるまでの間は、お造りと鶏の唐揚げ、串カツ、枝豆でご歓談を。ご飯は栗と松茸の釜飯で、デザートにも秋の風味が漂います。

3名様以上の予約制で

一人 3,500円(税・サービス料別)

・ご予約は3日前までお願いします。

●ご予約、お問い合わせは 上郡ピュアランド山の里 ☎52-6388まで

# 国史跡の指定に回けて

## これからの調査

**今** 回実施している調査は、平成14年度から16年度にかけての3ヵ年計画で、

駅家として全国初の国史跡の指定を目指した調査です。これまでの調査の結果、

野磨駅家は7世紀の終わりに八反坪地区において掘立柱建物として造られ、その後礎石立ち・瓦葺きの建物として飯坂地区に移転した。飯坂地区の駅家は、周囲を築地塀で囲い、山陽道に面した西側に立派な門があり、北側の山に接した場所に、中心的な建物である正殿が建てられていたことなどが判明し、非常に貴重な発見となりました。

しかし、国史跡の指定を受けるためには、まだ確認されていない東と南の築地塀や、正殿以外の建物とその配置、山陽道と駅家の位置関係など、更に具体的な遺跡の内容を明らかにする

必要があります。そのため、今後も調査を継続して行い、来年度には、これらの調査成果を報告書としてまとめ、国史跡の指定を申請する予定です。

指定を受けたあとについてですが、今回調査を行った駅家の中枢となる施設以外にも、馬を飼育する施設や倉庫、駅長や駅で働いていた人たちの家など、駅家に付属する施設が周辺にあるはずで、それらを含めた駅家全体について更に詳しい調査を行い、それらの成果を元に整備をしていく予定です。

### さ

わやかに歴史と未来の出逢うまち』上郡町には、白旗城をはじめたくさんの歴史遺産があります。今回調査をしている野磨駅家も上郡町の歴史を物語るすばらしい遺跡です。調査



発掘調査に携わられている皆さん(一部)

に協力していただいている落地区の方々をはじめ、町民全体から親しまれ、上郡町の自慢のひとつとなるような、整備をしていきたいと考えています。

今後の調査によって新たな成果が判明したときは、また皆さんにお知らせいたします。また、今年度の郷土資料館特別展は、これまでの調査成果展となっておりますので、ぜひご覧ください。【おわり】

上郡町郷土資料館特別展

『**落地飯坂遺跡調査速報展**』

☆11月30日(日)まで開催中!!

赤松円心の郷 **第12回**

**白旗城まつり**

- ◆ 日時: 11月23日(日) 9時~(小雨決行)
- ◆ 場所: 赤松健康広場周辺
- ◆ 内容
  - ☆白旗城跡登山・史跡めぐり
  - ☆円心太鼓・白旗たる太鼓演奏 (ほか)
  - ☆青空市場・各種模擬店 など

**豪華景品が当たるビンゴゲームもあるよ!!**

※お問い合わせ  
 赤松地区公民館 ☎52-4605  
 上郡町教育委員会 ☎52-2912

劇団ポプラのミュージカル

**大どろぼう ホッツェンブラット**

12月23日(祝) 13:30開場 14:00開演

**中央公民館大ホール**

鑑賞会費(前売り)《11月22日(土)から前売り開始》

- ・子ども(3歳以上).....500円
- ・大人(高校生以上).....800円
- ・親子ペア(大人1人子ども1人).....1000円

鑑賞券取扱所  
 ■中央公民館 ■地区公民館  
 ■スポーツセンター ■役場 社会教育課

【お問い合わせ】  
 上郡町立中央公民館 ☎52-1125